様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２７ 日現在

機関番号：３２６４４
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１５１９４

研究課題名（和文）南イタリア・プーリア州における農家建築と田園地域の空間構成に関する研究

研究課題名（英文）Study on the Farmhouse "Masseria" and the Spatial Organization of Rural Areas in Puglia, Southern Italy

研究代表者
稲益　祐太（INAMASU, YUTA）

東海大学・建築都市学部・特任准教授

研究者番号：６０８３２６８１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：南部イタリアのプーリア州において、農家建築の形態や立地、農地規模や栽培作物から類型化を行い、地域ごとの農家建築の空間構成を把握できた。大土地所有者による農場経営が支配的な南部イタリアでは田園地帯には農村的な小規模集落は多くない。むしろ、大規模な農家マッセリアmasseriaが点在しており、農地の管理・経営拠点としての役割を果たしていた。多くの農民は土地を持たない日雇い農民で、農繁期だけ雇用されるため、普段は都市内に居住している。そのために、都市内には零細農民が暮らす小規模住宅が存在していた。これらの農家建築が、アドリア海沿岸とムルジェ台地では異なる形態や空間を構成していることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
折半小作地帯の中部イタリアにおける農業景観について、生産形態や生産力に規定されて形作られていると指摘されてきたが、大土地所有地帯である南部イタリアのプーリア州の農地に着目した本研究は、景観構造の比較検討を可能にするものとなる。また、田園地帯および都市内に建つ農家建築に着目し、その建築形態や空間構成から農場経営の一端を明らかにしたことで、建築学の分野からの農業経済や景観に関する史的研究における新たな方法を提示した。

研究成果の概要（英文）：In Puglia, in southern Italy, we were able to understand the spatial organization of farmhouse architecture in each area, by typifying farmhouse in terms of form, location, farm size, and crops grown. In southern Italy, where farm management by large landowners is dominant, there are not many rural small settlements in the countryside. Rather, they were dotted with large farmhous "masseria" and served as centers for farmland management and administration. Many farmers are landless day laborers who are employed only during the busy farming season and usually inhabit the inner city. For this reason, there were small houses within the city where poor farmers lived.We found that these farmhouses constitute different forms and spaces on the Adriatic coast and on the Murge Plateau.

研究分野：西洋都市史

キーワード：都市史　テリトーリオ　マッセリア　農家　プーリア　大土地所有

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

イタリアの農業景観については、エミリオ・セレーニ（中村丈夫、植原義信訳『イタリア農業の構造的改革：イタリア農村の古いものと新しいもの』三一書房、1959 年）などによって、トスカーナ、ウンブリア、マルケ、エミリア・ロマーニャの一部を含む中部イタリアの折半小作地帯における生産力および生産関係に規定された構造を形作っていることが指摘されている（竹内啓一「トスカーナ折半小作地帯の最近における変貌―ヴァル・ディ・キアーナにおける事例研究―」『一橋大学研究年報　社会学研究』第 21 号、1982 年、pp.123-188）。一方、南部のプーリア州は封建的な大土地所有制下での農業が歴史的に行われてきた地域である。そして、その農場経営形態は戦後まで続き、「南部問題」として経済的発展の遅れを招いたとして、我が国でも経済史や農業史の分野では研究が行われてきた（堺憲一『近代イタリア農業の史的展開』名古屋大学出版会、1988 年や竹内啓一『地域問題の形成と展開: 南イタリア研究』大明堂、1998 年などがある）。

建築形態については、一時的な小屋としてつくられた、モルタルを使わずに石を積み上げていく円錐形や階段状の屋根をもつトゥルッリと切妻屋根のピニョン pignon という二つの空石積み pietra a secco の民家が取り上げてられている（LuigiMongiello, *Trulli e Costruzioni a Pignon*, Mario Adda Editrore,Bari, 1992、Giorgio Simoncini, *Architettura Contadina di Puglia*, Vitali e Ghianda, Genova, 1960）。また、農場管理人が生活するマッセリアと呼ばれる非常に堅牢な構えの農家（Antonella Calderazzi,*L'architettura Rurale in Puglia LE MASSERIE*, Schena Editore, Fasano, 2003）など、プーリア州特有の農家建築に関する研究が建築学の分野で行われてきた。

しかし、耕作地での農作物の作付けや農地のなかでの建物の配置など、農場を一体的に見て田園地帯における土地の所有や利用の形態に関しては未だ研究の遅れがあり、その解明には新しい視点からのアプローチが必要である。

２．研究の目的

本研究は田園地帯に建つ建物の機能や空間構成、さらに農場内での配置場所の特徴を、現地での実測調査や聞き取り調査によるフィールドサーベイならびに文献史料の両面から明らかにすることを目的とする。これらから得られる成果は、イタリア南部の封建的大土地所有制の農村景観への理解を広げ、これまで切り離されて検討されてきた田園地帯と都市部の繋がりを地域構造として捉えて、その特徴を見いだすことに大きな意義がある。

３．研究の方法

本研究は、プーリア州の田園部に点在する農家や放牧用の小屋などの建物の空間構成と、農場内での配置計画の特徴を、現地での実測・聞き取り調査を通して明らかにする。

プーリア州のムルジェ台地にあるグラヴィーナ・イン・プーリア市 Comune di Gravina in Puglia では、20 世紀初頭に不動産登記された八つの農場(La Selva、Poggiorsini、La Capoposta、L’Aspro、Masseria Pavone、Masseria Limelli、Villa Frippi、Costarizza）の測量図を用いて、各農場の場所を特定し、土地利用の変化を考察する。

アドリア海沿岸ではファサーノ市 Comune di Fasano を中心に、現地での実測・聞き取り調査を行い、農家建築であるマッセリアやトゥルッリの建築形態や各部屋の用途、農地内での立地を分析する。

また、農産加工品による産業としてオリーブオイル製造を取り上げ、農産物の運搬、搾油、貯蔵、輸送における田園地帯と都市部の関係性について考察する。

４．研究成果

ムルジェ台地上のグラヴィーナ・イン・プーリア市では、20 世紀初頭に描かれた不動産登記台帳附図の測量図が残されている農場の分析を行った。まず、各農場の場所を特定し、航空写真から現状との比較することで、農地の細分化は進んでいないことが分かった。多くの農地では小麦を栽培しており、近代以前の粗放農業による大土地所有農場での作付けからは大きく変化はしていないと思われる。また、大規模な農家、マッセリアは平面的に広がっており、壁で囲まれてはいないものも少なくない。

一方、アドリア海沿岸のファサーノ市周辺ではオリーブなどの果樹栽培が主で、一軒あたりの農場はムルジェ台地のものと比べると規模が小さい。また建築形態においても、アドリア海沿岸のマッセリアは堅固な壁で囲まれており、塔状の主屋を備えた要塞化している。マッセリアは住居だけでなく、オリーブオイル搾油場や家畜小屋、場合によっては小規模な礼拝堂もあり、複合施設といえる機能を持っていて、農場経営の拠点となっていることが明らかになった。

ヴァッレ・ディトリア地方では、石造の農家建築として田園地帯に円錐形屋根のトゥルッリが

点在している。実測調査から居住空間だけでなく、家畜小屋や食糧貯蔵庫なども備えた部屋が有機的に繋がっており、部屋の形状も円形に近いものが見られた。トゥルッリが集合して集落を形成しているアルベロベッロは市壁を持たず、農民を強制的に集住させてつくられた町と言われている。集落内にはもともと単室もしくは2室程度の小規模住宅が多く、後年になって裏庭部分での増築や隣家と室内を繋げて 1 軒の住宅にする改築が施されていることが明らかになった。また、隣家と壁を接して建っているために、矩形の室内にペンデンティブドームのような形でドームが架けられていることが多い。市壁で囲まれているマルティーナ・フランカは、17 世紀のドゥカーレ（総督）宮殿をはじめ、バロック様式のパラッツォや教会堂が建ち並ぶ町である。しかし、14 世紀に開墾を促進するために移住を推奨したために、都市内に農家住宅と思われる切妻屋根の住宅の存在を確認できた。この形態の住宅はクンメルサと呼ばれており、近隣都市ロコロトンドで多く見られ、南部イタリアの農民の都市内居住を示している。

オリーブ栽培が盛んなサレント地方の田園地帯において、農地のマッセリア内だけでなく、都市内でもオリーブオイル製造を行っているガッリーポリ Gallipoli で調査を行った。19 世紀初頭の課税用不動産登記台帳に記載されている 35 カ所のオリーブオイル搾油場のうち、今までに 4 カ所を調査してきたが、今回新たに 2 カ所を調査することができた。それらはパラッツォの地下部分に設けられており、地下に下りるための入口が街路に面して設けられている（日本建築学会誌『建築雑誌』に「華やかな都市の、その下には」を寄稿、日本民俗建築学会大会で「プーリア州ガッリーポリにおける都市内に造られた地下オリーブオイル搾油場」を口頭発表）。しかし、課税用不動産登記台帳の住所欄には街区名のみが記載されているため、現状の扉番号との正確な照合には至っておらず、今後の課題としたい。

なお、本研究は OVID-19（新型コロナウイルス感染症）の世界的大流行により、渡航が大幅に制限されたために現地調査が実施できない期間が長く続いただけでなく、国際郵便物の配達遅延や引受停止の処置があったため、文献収集を行うことができなかった時期があった点についても記しておく。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 稲益祐太	４．巻 347
２．論文標題 都市から田園、そしてテリトーリオの再生――南イタリアの「後進性」と「豊かさ」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 都市計画	６．最初と最後の頁 82,85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 稲益祐太	４．巻 37
２．論文標題 海路と陸路がつくる尾道のテリトーリオ	５．発行年 2019年
３．雑誌名 建築討論	６．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 稲益祐太	４．巻 134
２．論文標題 華やかな都市の、その下には	５．発行年 2019年
３．雑誌名 建築雑誌	６．最初と最後の頁 47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 稲益祐太	４．巻 7
２．論文標題 南イタリア都市の空間史～プーリア州のテリトーリオ～	５．発行年 2023年
３．雑誌名 福岡日伊協会会報	６．最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　4件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 稲益祐太
2．発表標題 都市と産業の形成過程から南イタリアのテリトーリオを読む
3．学会等名 日本建築学会「都市と産業に関する研究WG」
4．発表年 2022年

1．発表者名 稲益祐太
2．発表標題 スーヴェニールのなかの都市
3．学会等名 日本建築学会都市史小委員会シンポジウム（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 稲益祐太
2．発表標題 南イタリア都市の諸相―プーリアの建築とテリトーリオ―
3．学会等名 関東学院大学建築環境学部国際シンポジウム「南イタリア石造ドームの伝統的建築”トゥルッリ”の再生」（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 稲益祐太
2．発表標題 プーリア州ガッリーポリにおける都市内に造られた地下オリーブオイル搾油場
3．学会等名 日本民俗建築学会大会
4．発表年 2019年

１．発表者名 稲益祐太
２．発表標題 「書評会 稲益祐太著『南イタリア都市の空間史－プーリア州のテリトーリオ』」リプライ
３．学会等名 都市史学会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Yuta INAMASU
２．発表標題 Territorio di Puglia
３．学会等名 Seminario - Tavola Rotonda nell’ambito della ricerca scientifica congiunta italo-nipponica（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

〔図書〕　計2件

１．著者名 稲益祐太	４．発行年 2022年
２．出版社 法政大学出版局	５．総ページ数 238
３．書名 南イタリア都市の空間史　プーリア州のテリトーリオ	

１．著者名 植田曉、陣内秀信、マッテオ・ダリオ・パオルッチ、樋渡彩	４．発行年 2022年
２．出版社 古小烏舎	５．総ページ数 480
３．書名 トスカーナ・オルチャ渓谷のテリトーリオ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関